

小規模9校がスクラム

香美町内の小規模小学校9校が4月から、グループごとに年間を通して合同授業に取り組む。多人数で継続的に活動することを通じて、児童の社会性や人間関係の形成を図るのが狙い。

年間通して児童 合同授業や活動

現在同町では香住小を除く9校が小規模校。一定人数に満たない学年は、複式学級として2学年合同で授業を行っている。2013年度には全学年が複式学級になる学校もある。

新年度から実施する「学校間スーパー連携チャレンジプラン」では、9校を香住区と内陸部の二つにグループ分け。グループ内の同学年が年間10回程度集まり、合同授業や特別活動を行う。学習効果向上を狙い、達成度別の授業も予定している。移動費は町教委が補助する。

プランを企画した香美小学校長会によると、小規模校にはきめ細かな指導ができ、地域と連携が取りやすい利点があるが、保護者か

社会性や人間関係形成図る

らは「子どもたちに積極性や競争心が育ちにくいのは」と心配する声も聞かれるという。また体育などの実技科目やクラブ活動、学級活動では児童数によって活動内容に制約がある。

同町は県の小規模校交流促進事業「学校夢プラン」を活用し、近隣校同士で課外学習などを実施してきたが、回数に限られ不安解消には結び付かなかった。

現在グループ校ごとに教諭が集まり、年間計画を作成中。同会の会長を務める余部小の米田宏幸校長は「今できることでより良い教育を実現し、保護者の不安に対応していきたい」と話している。